1965年の回顧と展望　会誌編集委員会

はじめに

土木技術者の活躍する分野が最近の複雑な社会経済のなかできわめて広範にわたり，かつ，土木技術内部の専門の分化がますます多岐にわたる現状において，1年の終りにあたりその年の成果について回顧し，それに基づいて将来を展望することは，技術者が狭い専門分野の中に埋没することなく，常に広い全体的視野に立って的確な役割りを果たすために有益であるとの見地から，会誌 12 月号が<回顧と展望>の特集を試みてすでに今年で4年目を迎えることとなった。

社会資本の立ち遅れが指摘され，その整備のため公共投資の拡充が叫ばれてすでに久しいが，各分野においてその整備が進められている状況はいちじるしいものである。しかし，これらの国内の地域開発は，はたして十分長期かつ広域的な視野に立ち，他分野との有機的な関連をも意識した計画性をもって行なわれているであろうか。ひとつの例をとれば，都市交通網の整備，水源の開発，さらには各種の公害対策等が目前の対症療法的な措置に追われてはいないか。大都市周辺の土地利用計画が爆発的な都市のぼう張に先行しているか。もちろん，これらの問題は土木技術者だけの力をもって解決しうるものではないが，広範な社会・経済的な問題と深く接触せざるを得ないのは，Civil Engineering という語の示すように，土木技術の本質的な性格によるものと思われる。

狭い国土を開発して，その最も有効な利用をはかるためには，将来の国土の姿について合理的な予測を行ない，各分野にわたって有機的な関連を保つ長期計画の策定こそ急務である。そのためには，土木技術以外の他の分野の協力にまつところも大ではあるが，なんといっても国土の開発に主導的役割りを果たす者として，土木技術者の責務はきわめて重いというべきであろう。国内の開発が合理的に，すぐれた技術をもって推進されてこそ，土木技術の海外への進出をささえる潜在力もおのずから備わるはずである。

低開発国の建設工事のための海外進出は，ただ建設産業だけの問題ではなく，国際間におけるわが国の評価，ひいては将来の地位にも大きな影響をおよぼし，国民的な利益にもつながる問題である。国内企業どうしの過当競争をともなったり，また危険負担を企業だけに押しつけた海外進出ではなく，投資先として安全度の高い国に対しては重点的な開発援助などを積極的に推進する政策がとられることこそ望ましい。

以上の諸点をも考慮して，今年の<回顧と展望>の編集においては，過去3回の実績によってつちかわれたこの特集の性格を尊重しつつ，特に，国民生活に占める土木技術の比重の大きさを浮きぼりにすることに努めることとした。また，図，表，写真等をできるだけ多く入れて，見やすく楽しめる読物としたいと心がけた。

昭和 45 年の万国博の大阪における開催も正式に決定した。来年からは，この万国博に関連した土木事業が積極的に始められるであろう。来年の土木技術界の発展に大きな期待をかけつつ，この特集を会員各位の机辺におくることとする。

主査委員　中村正平　西　敏賢

委　員　茨木龍雄　上田勝基　大久保喜市　尾仲　章　北田勇輔　国広安彦　黒崎　護
小坂　忠　斉木三郎　堺　幸七　佐藤尚徳　渋谷祥夫　立石俊一　寺尾英二
豊島　修　樋口芳朗　前田　進　安井英夫　横山義一　吉村　恒　米田宗弘

本特集の編集に際しまして，貴重なる資料，写真などの提供を承わりました各位，またご助言をいただきました皆様，そして特集の一部の執筆をご担当承わりました各位に紙上より厚く謝意を表します。　【編 集 部】